

考古遺跡・遺物からみた遼東郡

遼陽・瀋陽地域の後漢・魏・晋墓と副葬土器の基礎編年

Archaeological Sites and Artifacts in the Liaodong Commandery:
Later Han, Wei and Jin Tombs in Liaoyang and Shenyang and a Basic
Chronology of Funerary Pottery

石川岳彦

ISHIKAWA Takehiko

はじめに

② 塋室墓・石室墓とその副葬土器の編年

おわりに

【論文要旨】

中原王朝が現在の遼寧省東部を管轄した遼東郡の郡治・襄平があったと考えられている遼陽とその北の瀋陽一帯の紀元前後から紀元3世紀代の墓とその出土遺物の基礎的編年をおこなった。この地域の墓に関しては、今日までに石室壁画墓を中心にして東隣する高句麗の壁画墓との関連からの研究が数多くなされている。本稿では魏晋代に盛行するこれら石室壁画墓のほかに、この地域の塋室墓も含めて、後漢代の紀元前後からの墓を分析の対象とする。

まず、これらの石室墓と塋室墓の年代を決定するために、副葬土器の編年をおこなった。編年の対象には多くの塋室墓、石室墓に共通に副葬される壺、盤といった器種を選択した。また、塋室墓と石室墓をその平面構造を主な基準として分類し、副葬土器の編年をもとにしながら、これらの墓の構造変遷過程を明らかにした。

以上の研究分析の結果からは、遼陽・瀋陽地域において、後漢代から西晋代にかけて中原中心地域の影響を受けながらも、一定の地域性を保ちつつ、塋室墓と石室墓が墓の構築素材の違いを横断した関連性をもちながら内部構造を変化させていったことが明らかになってくるのである。

【キーワード】 遼東郡 石室墓 塋室墓 副葬土器 墓制 編年